

東京近郊に通う大学生向けの防災啓発マニュアルの提案
 -市民の防災力向上に向けて その8-

正会員 ○ 伊村 則子*1
 正会員 西川 知恵*2
 正会員 佐藤 融紀*3

防災 大学生 大学
 地震 防災情報 啓発マニュアル

§ 1 はじめに

大学生の防災行動力の向上を目的に、本報では大学から学生向けに配布されている防災情報を収集し、本学の現状と比較・分析し、新たに試作した武蔵野大学学生向けの防災啓発マニュアルについて報告する。

§ 2 大学における学生に対する防災情報

2.1 調査概要

他大学が学生に対して提供する防災情報や、本学の情報の位置づけを把握するために、他大学の学生手帳と学生ハンドブックを収集した。調査は 2006 年 5~8 月に関東圏 14 校、阪神地区 6 校(現地ヒヤリング調査による入手または電話による聞き取り調査)、比較のためホームページ上で一般公開している東海地区 2 校の事例を収集した。

2.2 大学の防災情報提供の状況と本学との比較

防災情報の提供状況は、表 1 のように「①学内生向けの具体的な情報(5 校)②一般的な情報(11 校)③情報がない(6 校)」に分類された。本学は②の一般的な防災情報の提供に位置づけられた。防災情報を提供する大学で扱いが多い内容は「警戒宣言、学内での地震発生時の行動、地震時の避難の心得」であるが、内容は大学によって大きく異なり、学生に詳細に記載している大学と一般的な内容にと

どまる大学に分かれた。①に該当する大学では、学外で大地震が発生した場合の行動や救護の心得、学内の公衆電話の位置などを掲載していた。学内学生向けの情報は、東海地震の地震防災対策強化地域の静岡大学¹⁾、名古屋大学²⁾、阪神・淡路大震災で被災した神戸大学³⁾、関西学院大学⁴⁾、関東圏では玉川大学⁵⁾や津田塾大学⁶⁾が掲載している。表 1 に本学と①該当の大学の提供状況と比較した結果、本学の改善案を最下段に併記した。改善案は緊急度合別に、早急に着手すべき課題を「1」、現状にあるが改善した方がよいものに「2」、第 2 段階の着手でもよいと考えられる課題を「3」、現状維持を「-」として表現した。

提供されている内容を詳細にみると、まず「警戒宣言」については、大学によって項目に差はなく、「在宅中」「通学中・帰宅中」「在学中」「授業措置」に分けられる。特に「在学中」「在宅中」「授業措置」は多くの大学で記載がある。

次に、地震発生後の初期行動については、大地震発生時の学内での行動と重なる内容が多く、あえて記載している大学は少なかった。初期行動として書かれている内容はどの大学もほぼ同じで、「身の安全の確保」「火の始末」「出口の確保」であった。初期行動では、二次災害を防ぐ基本的・最低限の内容があげられている。静岡大学の

表 1 大学から学生への防災情報の提供状況と武蔵野大学の改善課題

| 提供し る 学 校 | 大学名 | 配布冊子 | | 提供している防災情報の内容 | | | | | | | | | | | | | | | | その他 | |
|--------------------|----------|---------------|-----------|---------------|----------------------|------|-----------------------|------|-----------------------|-------------------|-----------|-------------------|---------------------|-----|-------------------|------------------|----------------------|-------|--|---|---------------------------|
| | | ①学生 ハンドブック | ②学生 手帳 | 警戒宣言 | | 発生時 | | | | 事前 | | | | 教職員 | | | | | | | |
| | | | | 警戒宣言 発令時 | 警戒宣言 発令時の 社会状況 | 初期行動 | 大地震 発生時の 行動(学内) | 避難場所 | 大地震 発生時の 行動(学外) | 地震時の 避難の 心得 | 火災 発生時 | 災害用 伝言 ダイヤル | 地震に 対する 日常の備え | 備蓄 | 地震時の 救護の 心得 | 地震時 の基礎 知識 | 東海地震 注意報が 出たとき | 勤務外の時 | | | |
| ② | 武蔵野大学 | ○ | ○ | | × | × | | | | | | | | | | | | | | | |
| ① | 玉川大学 | ○ | | | ○ | ○ | | | | | | | | ○ | ○ | | × | | | ①総合防災訓練 ②防災ボランティア ③学内安全情報 ④教職員非常召集連絡網 ⑤避難・救出に役立つ校舎使用の届出と終業報告の義務付け ⑥台風・自然の中での事故 ⑦交通事故⑧身近な事故と犯罪 ⑨海外旅行の安全管理 | |
| | 津田塾大学 | ○ | × | | × | × | | × | | | | | ○ | ○ | × | × | × | × | | ①建物施設設備(避難器具・EV・非常階段・消火栓・非常放送・公衆電話等) ②気象発表情報 ③地震等の発生時の休講措置 ④消火設備の使用法 ⑤座席制度 | |
| | 静岡大学 | | | | ○ | ○ | | | | | | | × | × | ○ | × | ○ | | | | |
| | 名古屋大学 | | | | ○ | ○ | | | | | | | × | × | ○ | × | × | | | | |
| | 関西学院大学 | ○ | | | × | × | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | | | ○(電話ボックスの設置場所等) ○(広域も) |
| ② | 法政大学 | ○ | × | | × | × | | | | | | | × | × | × | × | × | | | | |
| | 東京女子大学 | ○ | × | | × | × | | | | | | | × | × | × | × | × | × | | キャンパスの設置配置図 (非常ベル・消火器・消火栓) | |
| | 中央大学 | ○ | ● | | × | × | | | | | | | × | × | × | × | × | × | | ①平面図に消火器設置場所・避難器具設置場所記載 ②自動火災報知器、消火器、屋外消火栓、救助袋、防火シャッター等の設置 | |
| | 女子美術大学 | × | ○ | | × | × | | × | | | | | × | × | × | × | × | × | | 災害緊急連絡カード(連絡先、健康保険、病歴、特異体質、血液型)記入欄 | |
| | 大東文化大学 | × | ○ | | × | × | | × | | | | | × | × | × | × | × | × | | 緊急時の連絡方法、保護 | |
| | 東京情報大学 | × | ○ | | × | × | | × | | | | | × | × | × | × | × | × | | ①学内子レホンリスト ②専修大学緊急情報TEL | |
| | 専修大学 | × | ○ | | × | × | | × | | | | | × | × | × | × | × | × | | | |
| | 工学院大学 | ○ | | | ○ | × | | | | | | | ○ | × | × | × | × | × | | | |
| | 神戸薬科大学 | ○ | × | | × | × | | × | | | | | × | × | × | × | × | × | | 防火対策 ①自動火災報知設備②消火栓 ③消火器④避難経路⑤防火シャッター⑥消防隊専用送水管口 ⑦消防水利指定・非常時避難要綱 ⑧火災に備えての風水害に備えて | |
| | 神戸大学 | ○ | | | × | × | | × | | | | | ○ | × | × | × | × | × | | | |
| ③ | 神戸女子学院大学 | | × | | × | × | | | | | | | ○ | × | × | × | × | × | | | |
| | 明治大学 | ● | × | | | | | | | | | | | | | | | | | | 事故発生→保険金が支払われる迄 |
| | 千葉工業大学 | ● | × | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 東京理科大学 | ● | × | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 成徳大学 | ● | × | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 甲南女子大学 | × | × | | × | × | | × | | | | | × | × | × | × | × | × | | | 職員に対しての指導のみ |
| | 甲南大学 | × | × | | × | × | | × | | | | | × | × | × | × | × | × | | | |
| 武蔵野大学における改善点 | | | | 2 | 1 | 1 | 2 | - | 1 | 1 | - | 1 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | | | | |

○:配布、防災情報記載有 ●:配布、防災情報記載無 空欄:不明

事例がわかりやすく、地震発生後から時間別にとる行動が、フローチャートで簡潔にまとめられている。

大地震発生時(学内)の行動については、10校中9校が「落下物から身を守る」、8校が「出口の確保」、6校が「火の元を消す」を扱っている。静岡大学の例がわかりやすく、場面別に、また他大学に比べ非常に具体的な内容である。

大地震発生時(学外)の行動については、一般的に内容が充実している大学が扱っており、玉川大学、津田塾大学、静岡大学、神戸大学であった。玉川大学では「マンション・団地・家屋・アパートでは」「乗り物の中では」「街中では」と場面別に書かれ、津田塾大学では簡潔にまとめられている。

避難時の心得は、「落下物に注意する」「エレベーターは使用しない」の内容を扱っている大学が多かった。工学院大学では「1階から校舎外に避難すること」という記載があったが、これは校舎が新宿の超高層ビル群にあり、地下からの出口もあり、立地が大きく関わっている。

火災発生時については、「早く知らせる」「早く消火する」「早く逃げる」「煙が充満しているところでは、体を低くし、ハンカチ等で口を覆う」という内容が多い。特に首都圏の大学で多く書かれている。また、東海地震想定地域では地震の内容とリンクして書かれていた。

地震に対する日常の備えについては、「家族内での話し合い」「非常口の位置や避難経路の確認」の内容が多い。最も詳細な記述は関西学院大学であり、具体的に家具の転倒防止策が書かれている。

地震時の救護の心得の記述は、玉川大学と静岡大学の2校にとどまり、提供内容の充実度合いがこれによりわかる。その他、特徴的な内容に、関西学院大学では校内の避難場所案内地図に公衆電話が記載され、他大学にない工夫といえる。発災直後は一般加入電話より公衆電話が役に立った事例もあり、また現状としても発災直後は、携帯電話はほとんどつながらないと言われていることなどから、採用したい先進事例といえる。

§ 3 防災啓発マニュアル

3.1 啓発マニュアルの内容および形態

前報のアンケート調査より、現在本学が提供する防災情報が認知されていないことから、いざという時に使える防災啓発マニュアルを提案することにした。現行の一般的な内容を本学学生向けに改善し、携帯率をあげるために B5 版で 1/8 に折り畳んで手帳や財布、定期入れに入る形状とした。

3.2 防災啓発マニュアルの提案

防災啓発マニュアルの構成および掲載理由を表 2 に、制作した啓発マニュアルの一部を図 3 に示す。

地震発生後、冷静に行動できるよう場面別に具体的に「初期行動」(表紙、表面①②)を記した。またアンケート結果より学生が知りたい情報にあげた「避難場所(裏面)」「家族の安否情報(表面③)」も掲載した。表面の④⑤⑥⑦は地震に対して日頃から知っておく基本的な内容とした。この

表 2 防災啓発マニュアルの構成および掲載理由

| 構成 | 掲載理由 |
|--|--|
| ①初期行動 ②地震発生時の行動(学内) 地震発生時の行動(学外) | 地震発生時にすぐ見られるように初期行動、学内、学外に分け、他大学(特に静岡大学)の防災情報を参考に、具体的に場面別に行動を掲載する |
| ③安否情報 | 災害時、被災地への電話がつながりにくくなるため、家族の安否については、非常時の連絡手段として『災害用伝言ダイヤル』、『災害用伝言板サービス』の利用が有効となる。また、学生が地震時に知りたい情報として、避難場所に次ぎ、多く回答したため掲載する |
| ④日ごろから行うべき行動 ⑤警戒宣言 ⑥帰宅困難者 | 事前に見られるように、日頃から行うべき行動、警戒宣言、帰宅困難者を載せた。帰宅困難者については、首都圏で多くの人が被害に遭うと予想され、また、武蔵野大学でも通学時間が1時間以上の学生が58%もあり、多くの学生が帰宅困難者になる可能性がある |
| ⑦その他 | 自宅外で被災した場合でも、持っている役立つものを掲載した。本格的な災害対策用品を持っていないでも代用できるものを提案する |
| 避難場所 (一時避難場所・広域避難場所) | 『一時避難場所』広域避難場所は、アンケート調査からほとんど認知されていない。また学生が地震発生時に最も知りたい情報にあげたため掲載する |

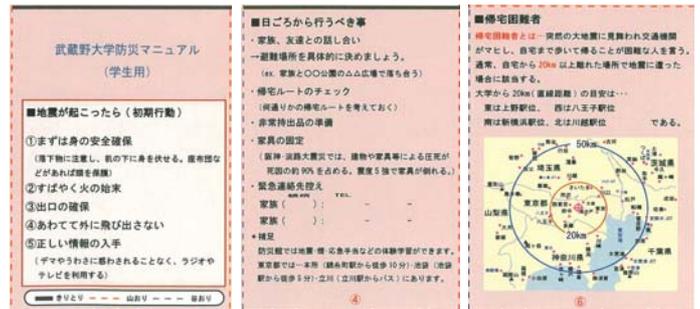


図 3 防災啓発マニュアル

ような事前からの内容(備え)は、本学はこれまでなかったが、阪神・淡路大震災などの例から大切であり、多くの大学が提供している現状からも重要度が高い項目である。

§ 4 おわりに

大学提供の防災資料は不足点や曖昧な点が多かったため、できるだけ本学の学生版の内容とし、携帯率があがるよう小型の防災啓発マニュアルを提案した。段階的に情報のレベルをあげられる様な提供の仕方が、今後の課題である。

【引用文献】

- 1) 静岡大学: 静岡大学の防災対策, <http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~semsato/zisinbukai.htm>, 2006年1月15日.
- 2) 名古屋大学: 地震防災指針, http://www.engg.nagoya-u.ac.jp/library/bousai/f_cont.html, 2006年1月16日.
- 3) 神戸大学: 学生生活案内, 防災の心得, 2006年.
- 4) 学校法人 関西学院: “いざ” という時のために 2006 緊急災害ハンドブック, 2006年4月1日.
- 5) 玉川大学: 防災の手引き いざという時のために, 2006年4月1日.
- 6) 津田塾大学: 2006年度 津田塾大学 学生ハンドブック, pp. 22~23, pp. 31~34, pp. 46~47, pp107, 2006年4月1日.

*1 武蔵野大学環境学科 准教授・博士 (学術)
*2 新日軽株式会社
*3 株式会社アベルコ

*1 Assoc. Prof., Dept. of Environmental Sciences, Musashino Univ., Ph. D.
*2 Shin Nikkei Company, Ltd.
*3 AVELCO, Co., Ltd.